



県指定無形民俗文化財

牛蒡祭

J R 名松線伊勢竹原駅から雲出川支流の八手俣川沿いに進むと、君ヶ



野ダムの上流に位置する下之川集落に仲山神社がある。ここで毎年2月11日に、子孫繁栄と五穀豊穡^{じょうりく}を祈る祭礼として行われるのが牛蒡祭である。

仲山神社は、美杉町多気に本拠を置いた北畠氏の祈願所で、そのころの祭りが牛蒡祭の原型といわれている。祭りが現在の形になった時期は明らかではないが、当地に保存されている慶長10(1605)年の「番頭帳」から、長い歴史を持つ祭礼行事であることが知られる。

牛蒡祭の名称は、下之川地区で集められたゴボウをさんしょうみそや唐辛子みそであえ、朴葉^{はく}に包んで供えたことに由来する。また、この行事には男女のシンボルをかたどった木とわらのみこしが繰り出すことから「ヘノコ祭」とも呼ばれている。

1月下旬には神事の練習が本格化し、神社に供えるゴボウの材料集めが始まる。かつては地元の各組ごと



牛蒡祭の行事のひとつ「お弓神事」

に作られていた味噌ゴボウも、現在は神社近くの「ごんば会館」であく抜きから蒸しまでの作業を共同で行い、独自の味噌ゴボウに仕上げられる。

祭り当日は、地区の安全と五穀豊穡を祈って4本の矢を放つ「お弓神事」や、神前に供えられたボウを古式の作法で調理する。「まな板行事」が行われる。神事の後には供えられた味噌ゴボウやボウは参拝者にも振る舞われ、境内には500人を超える人々の熱気があふれる一日となる。

(「広報津」平成19年2月1日号)